

令和3年度 学校経営計画（その2）に基づく最終評価

【Ⅰ－1】 基本的な生活習慣の確立

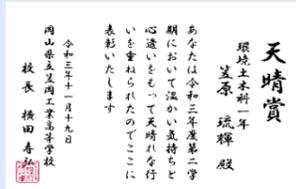
○挨拶は、殆どの生徒ができるようになった。「立ち止まって先言後礼」についても、運動部の生徒を中心に半数近い生徒ができるようになってきた。殆どの生徒ができるように今後も指導を続けていきたい。

○遅刻者数については、一昨年度の2倍ではあるが、昨年度、同時期の3倍と比べ減少している。欠席者については、昨年度よりもさらに減少している。コロナ感染症対応の影響も考えられる。今後も継続的な指導が必要である。

○「褒めの教育の推進」については、学校行事の規模縮小・削減などもあり、善行カード「あっぱれ！」カードの発行が出来ていない。（学期毎に表彰）



R01; 2/19 現在 216枚発行
 R02; 2/19 現在 821枚発行
 R03; 2/19 現在 316枚発行



評価 B

【Ⅱ－1】 基礎学力の向上と学習習慣の定着

○授業規律の確立は、「笠工授業5」を年度初めに全教室と体育館、実習室等に掲示し、徹底を図っている。またシールを作成し、教務手帳に貼付し指導の徹底を図っている。

○全校生徒に対して、基礎学力、家庭学習、授業規律の重要性についてオンラインでのプレゼンを学力向上の視点から実施した。

○生徒の集中力、読解力、思考力を高める事を目的に、朝学（毎朝5分間）を学年団が中心になり実施。

○「家庭学習」30分未満/日、0分/日の生徒は学年が進むにつれて増加している。宿題の工夫などにより、継続的な指導が必要である。

○「基礎学力テストCゾーン以上の生徒数」は、4月の段階で昨年度比で1年生において下降が見られるが、全体的に上昇傾向がみられる。今後も継続的な指導が必要である。

○ICTを活用したオンライン授業研修・研究のためのチーム（ICT活用プロジェクトチーム）を中心とした全体研修を3回実施した。

朝学の取組（内容）
 1年生-100マス計算、書き写し
 2年生-100マス計算、書き写し
 就職問題
 3年生-就職問題集、読書

家庭学習 30分未満/日

年度	3年生	2年生	1年生
H30	53.7%	47.7%	27.0%
R01	53.1%	56.6%	18.2%
R02	61.7%	47.1%	14.3%
R03	55.9%	38.5%	15.4%

基礎学力テストCゾーン以上

年度	3年生	2年生	1年生
H30	23.2%	25.7%	32.2%
R01	28.5%	22.6%	32.2%
R02	28.7%	31.2%	46.9%
R03	31.5%	39.6%	37.5%



評価 B

【Ⅲ－1】 学校開放や保護者・地域との連携の推進

○ホームページ、ブログ、SNS等の更新では、部活動、授業や生徒の様子、校内の施設・設備等が分かるものを積極的に掲載していく。

新たに、生徒のナレーション入り全国募集用動画を制作し、ネット配信した。

笠工の魅力やYouTube・Instagramで配信し「楽しさ」、「面白さ」、「技術の高さ」などを紹介した。

○オープンスクールを2回実施したが、秋季オープンスクールについては、多くの中学校での行事と重なり、個々の学校毎に対応した。福山市の中学生が6人参加し、学校見学に5人來校した。

○コロナ禍で感染症の影響から、出前授業は、例年の時期に実施が出来ない状況となり、金浦、高屋の2校でのみ実施。3科の実習内容を体験してもらう講座を開き、参加した中学生から好評を得た。

ホブンスクール参加中学生数
 夏季 秋季
 R01 175人 50人
 ↓
 R02 - 103人
 ↓
 R03 134人 61人

出前講座の内容
 電子機械科 溶接・3Dプリンター
 電気情報科 電子工作
 環境土木科 測量・ドローン・ゲレンデの橋

青空こども園の依頼で「秘密基地の土台」試作品を贈呈
 近隣中学校への出前授業

評価 B

【Ⅰ－2】 部活動の活性化・効率化

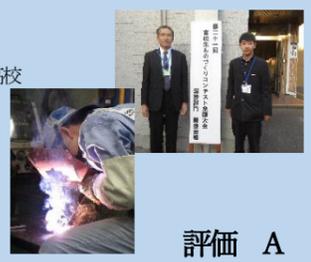
○笠工ニュース、Instagram、笠工blogで、各部の活動・活躍の紹介を実施。11月末に調査をした結果、同一の時期ではないが過去3年間で一番低い値となった。今後もより一層、各部の活動状況に関する情報発信と入部等の指導を継続する。

○インターハイにレスリング部から2名、ウェイトリフティング部からは2名が出場、内1名が102kg級で3位に入り銅メダルを獲得。また、レスリング部は、全国高校生グレコローマンスタイルレスリング選手権大会に5名が出場。機械工作部については、高校生ものづくりコンテスト全国大会（溶接作業部門）に出場し5位に入った。

○部活動や授業の様子等を掲載した笠工工業高校情報新聞「KASAKO NEWS」を発行。近隣中学校等にも配付。11月末現在、第8号を発行。広報の媒体を活字や写真から映像へ移行したため発行部数が低下した。

部活動加入率

	9月	11月末
R 1	87.6%	-
R 2	88.3%	-
R 3	-	76.3%



評価 A

【Ⅱ－2】 資格取得の推進

○機械製図検定は本年度、10名（10名）が合格した。（ ）内は昨年度の実績

計算技術検定1級については、5名が合格した。本校では、初めての合格者であり、2年生1名、3年生4名という結果である。

資格検定については、社会的評価が高い技能検定等の国家資格を継続的に取得させていきたい。

土木施工管理（合格率）
 R01 21名 → R02 15名 → R03 18名 (67%) (74%) (50%)

インフラ調査士補（前期中止）
 R01 4名 → R02 5名 → R03 6名

○ジュニアマスター
 R02 R03
 ゴールド 1名 (1.0%) → 5名 (4.5%)
 シルバー 4名 (4.1%) → 4名 (3.6%)
 ブロンズ 25名 (25.5%) → 27名 (24.5%)

○職業教育技術顕彰
 R02 24名 (23.5%) → R03 28名 (25.5%)

○工業教育技術顕彰
 R02 17名 (17.3%) → R03 22名 (20.0%)

3級技能検定
 普通旋盤作業
 R01 2名 → R02 4名 → R03 2名
 機械検査作業
 R01 13名 → R02 8名 → R03 7名 (1/23)
 電気系保全作業（今年度中止）
 R01 1名 → R02 (中止) → R03 4名 (2/19)

計算技術検定1級
 R01 0名 → R02 0名 → R03 5名
 計算技術検定2級
 R01 6名 → R02 16名 → R03 35名

第1種電気工事士
 R01 1名 → R02 1名 → R03 0名
 第2種電気工事士
 R01 26名 → R02 28名 → R03 21名 (12/18)

危険物乙種
 R01 27名 → R02 28名 → R03 24名 (2月受験)

評価 A

【Ⅲ－2】 進路指導・キャリア教育の推進

○就職内定先企業（採用担当者）による面談を実施。内定後の生徒の緩みが減少するとともに、個々の生徒に課題・指針（学生生活）を示していただいた。

○令和2年度よりキャリアパスポートを作成。R3年度自己評価等を書きやすく改定。3年間の経験・体験・感じたことなど綴る集大成的なものとして全学年とも活用している。

○笠岡市と連携した長期インターシップ等が中止となり、代替として、笠岡市と連携しての進路ガイダンスを1年生対象に1月実施。2年生全員のインターシップを12月に実施。

○就職希望者の民間企業一次内定率は94.3%で、10月末には100%を達成。内容についても大手企業、有力企業等の内定が増加した。また、昨年に続き全員（縁故を除く）が工業系企業へ就職した。公務員も希望者3名全員が合格した。（市役所・消防・自衛隊）

R01 102名 (121名)、77社 (94社)
 ↓
 R02 33名 (71名)、33社 (65社)
 ↓
 R03 68名 (88名)、60社 (80社)

6月8日に進路に関する保護者説明会を実施（対象は3年生）。2・3年生それぞれに進路講演会、1・2年生に工場見学、1年に進路説明会・進路ガイダンス、その他OB・先輩の話聞くなどキャリア教育の推進を図った。

インターンシップ受入企業
 109社276名（在籍：94人）
 回答企業中77.0%、参加人数の約3倍の受入体制確保
 インターンシップへの参加者
 R02 117名
 ↓
 R03 94名

就職一次内定率 国立大学2名合格
 R01 99.2% 島根大学に電子機械科1名
 ↓ 徳島大学に電気情報科1名
 R02 95.8%
 ↓
 R03 94.3% (10月末100%内定)

評価 A

基本的な生活習慣の確立

基礎学力の向上・学習習慣の確立

学校開放や保護者・地域等との連携の推進

【Ⅳ－1】 ものづくり教育の推進

○笠工テクノ工房が準道に乗り、地域の保・幼・小・中・特別支援学校や市役所などと連携し、ものの製作や補修活動を行っている。課題解決型学習の先進事例となっている。

・イノシシの箱ワナの製作(セカイ付)
 ・アルコールスタンドの製作
 ・和風イルミネーション
 ・生徒機の修理など

○環境土木科では、第36回中国地区測量技術競技大会（平板測量の部）第3位となった。また、今年度の課題研究では、「笠工近隣の海岸風景」と題してジオラマを製作した。

○電気情報科の第28回全国ソーラーパワーカーコンテストで、第1位から3位の表彰台を独占した。また、ジャパンマイコンカーラリー2022大会中国地区予選会では2位となり、全国大会出場を果たした。仁科ポットコンテストでは、デザイン賞を受賞した。

設置完了後の箱ワナ
 アルコールスタンドの寄贈
 制作したジオラマ

第36回中国地区測量技術競技大会
 第28回全国ソーラーパワーカーコンテスト

評価 A

【人材育成】 社会人としてのマナーや確かな職業観・勤労観を持ち、意欲的で我慢強さや責任感を身に付けた人材を育成する学校

【学力向上】 基礎的な学力と教養を身に付けるとともに、豊かな専門的知識や技術・技能を有する人材を育成する学校

【地域との連携】 地域社会のニーズと保護者の期待に応え、地域の教育力と連携を密にして、一層開かれた学校づくりを推進する学校

【魅力的な学校づくりの推進】 学習環境の整備を進めるとともに、全ての教職員が自己の資質向上、専門性の深化に努めつつ、生徒にとってより魅力的な学校づくりを推進する学校

【本校の目指す姿】 生徒一人ひとりが大切にされ、笠工生としての誇りと自信を身に付けることのできる学校

【本校の使命・存在意義】 科学技術創造立国としての我が国の産業基盤を支えるため、専門的技術・技能と確かな職業観・勤労観を持つ心身ともに健全な社会人を育成することにより、地域社会に貢献することを以て本校の使命・存在意義とする。

キーワード : 徹底